原子力・放射線部会

５月例会レジュメ

（Ｈ２０．５／２３（金）１８：００～２０：００開催）

場所　　技術士会葺手ビル５階 CD 会議室

参加者　28 名（講師北村教授及び来賓竹下専務理事を含む）

１．原子力と社会との関係の再構築の時代にー技術士はどのような役割を果たすべきか

講演者：東北大学　北村正晴教授

原子力 PA 活動における、知識不足が反対意見となっている考え方は間違いである。技術レベルの向上により社会全体の安全安心度が上がり、他国では問題とならないレベルの影響も懸念されるようになり、技術・技術者集団に対する社会の批判的視線は厳しさを増している。実践的研究として市民との直接交流活動を進めてきた。対話フォーラムの基本設計は、①反復実施、②参加者・話題を限定しない、③内容の非公開（住民が本音にならない）、④参加者主体の運営、が成果のある活動の柱である。
デベートでは問題解決しない、ダイアローグ（共有できる信念や共通善を見出す行為）が必要である。技術者側は聞く耳を持つべきで、平常時のコミュニケーションなしで、異常時だけうまくいくことはありえない。

２．意見交換；上述の講演テーマに沿った内容で、技術士にできること

原子力界と社会との関係再構築に技術士として何ができるかについて、会場参加者を含め意見交換を実施。その中で、当部会より「意見発信プロジェクト」の説明も実施された。北村教授からは、方向性はポジティブ、意見集約は大変であるが、平常時の了解を得ておくことが重要とコメントをいただいた。

学術専門家、技術専門家としての対社会発言はもっと強化されるべき、同じ軽水炉であっても他社であれば当事者ではない。また、当事者であっても、技術的な内容としての半歩踏み出したような発言を期待したい。中立であることを求められるのではない、公正であることが重要である。双方公正のために、平常の準備作業を考えていく必要があります。